

科学研究費補助金（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	19673001	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	明治日本の国家形成過程における条約改正	研究代表者 (所属・職)	五百旗頭 薫（東京大学・社会科学研究所・准教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

膨大な研究蓄積のある分野であるにも関わらず、斬新な方法で、多角的でユニークな研究成果を挙げ、新境地を開くことに成功し、学術的価値は高い。とくに研究史の検討の上で、当時の知的風潮を反映するものとして、吉野作造講義録を素材として取り上げ、ここに一つの研究の焦点を当てていることは、研究の成功に導いている一要素で、その成果も専門誌に公開されている。また、政治外交史と、地域社会史の架橋という課題に向かい、それに成功しており、外交史と地域史への貢献につながろう。かつ、多数のしかも幅広い研究者の協力を得ることによって、資料収集も膨大なものに及び、研究者間の連携も活発である。それによって、総合的な「条約改正」像の構築に貢献している。先に述べたもの以外にも、既に公刊された研究成果あるいは学会発表など、当初目標に向けて数多くの研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれると評価できる。

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	研究成果の主要内容は、研究代表者によって大冊、『条約改正史：法権回復への展望とナショナリズム』（有斐閣、2010年12月）として公表された。その内容は、これまでの「条約改正」研究の水準を大きく高めるものであり、学界への貢献は大きい。また、研究の副産物としての「吉野作造講義録」の刊行も貴重である。今後、これらの研究成果を踏まえて、近代日本政治外交史にいかなる新しい展望が開けるのか期待する。